

Y21a 「ジャパンサーチ」の天文教育普及研究利用

玉澤春史（京都大学/京都市立芸術大学）

日本国内の様々なデジタルアーカイブを横断的に検索する「ジャパンサーチ」が2020年に正式リリースとなり、各データベース、各施設のサイトで検索していた状況から検索がより容易になった。また、コンテンツの提供側にとっても自前コンテンツへのアクセスの増加が期待される。天文分野に関する資史料も公開されており、画像使用の確認や複数の施設で所蔵されている資料の比較などが容易になった。おりしも調査に関してもリモートによる対応が必要な状況が重なり、今後も連携および利用の重要性は増していく。天文に関する史料を手元で見ることが容易になる点は研究だけでなく教育の場面でも有用であり、画像資料を実際に見ることにより記された当時の認識がどうであったかをより理解しやすくさせたり、史料の画像がどこの施設のものであったかを確認してもらうなど、提供側・享受側双方にとって有益である。天文学の教育を受ける意義の中にも世界観・宇宙観の形成を知ることは固有の意義として指摘されているが（日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準物理学・天文学分野」など）情報元が信頼でき、手元での資料閲覧がより容易になるメタデータベースの利用はこの目的に帰すると考えられる。本講演では実際の利用例も紹介しつつ今後の可能性を探る。